

ユニック産業

ユニック産業(株)(川崎市高津区宇奈根、☎044・844・5663)は、卓上型ラベル剥離機を手がける会社。ラベルを「貼るために剥がす」役割と位置づけ、これまで自動車、食品、医薬品などさまざまな業界の要望に応えてきた。近年では展示会への出展やSNSで情報発信を行うなど、プロモーションを推進。ラベル業界に向けても剥離機のニーズを模索している。同社の佐藤恵樹社長へ、ユニック産業製ラベル剥離機の特徴やマーケットニーズ、今後の展望を聞いた。(柏木)

「まずは、貴社の概要やラベル剥離機のニーズを

「1975年に設立して以来、ラベル剥離機の開発、販売を行っています。設立当時を振り返ると、紙系ラベルを半自動で剥離させたという要望がほとんどでした。そこから現在に至るまで多種多様な特殊ラベルの普及に伴い、人の手で剥がしにくいラベルから引き合いを得、化粧品や食品用ラベルなど業界問わず、普及していったのです」

「ラベル剥離機はどの



佐藤恵樹社長

貼るために剥がす 存在際立つ ラベル剥離機で効率向上を

ような進化をたどったか

「透明ラベルの剥離もやりたいという顧客の要望に応え、粘着剤を光で検知するフォトセンサー機構を設けているのが現在の主流です。加えて、ラベル厚の薄型化に対応。25ミリのラベルを剥がすことを実現しています」

「そのほか、ラベルの送り長を調整可能なツマミがあるのが、当社ラベル剥離機の特徴です。細かな単位で数値を入力するようなものではなく、ツマミには「短」と「長」が記してあり、機械から剥離されたラベルをユーザーが取りだしやす

いよう直感的な調整を図れる仕様になっています」

「ラベル剥離機に求められるのは使い勝手のよさです。段ボールやパッケージなど、貼付対象物が1日中流れてくる工場ラインで複雑な設定を設けては、ユーザーの手を煩わせてしまいます。使い手を選ばず、電源さえあればどこでも、にもかかわらずにもラベルをスピーディーに「貼るために剥がす」存在です」

「製品ラインアップは現在の主力製品『P-220』の形状をベースとして、剥離紙の巻き取

りユニットを設けた『P-220W』があります。加えて、ラベルの搬送中にインク式スタンパーを設けロットナンバーや日付などを印字可能な『P-324V』、インクリボン方式でのホットプリンターで刻印する『P-363V』などを取りそろえています」

「このうち巻き取りユニットのニーズに関しては、1日中剥離機を使い続けられ、厚さ何ミリの剥離紙はやがて1つの塊となり、足で踏むと滑って作業に支障をきたす恐れも。わざわざ作業を止めて、散らばった剥離紙を片付けなければいけません。工場内でスムーズな作業を確立するために巻き取りユニットの装着を推奨しています」

「印字・打刻ユニットについては「ラベルを剥がすのと同様に、何枚貼ったのか把握する必要があるお客さまには、オプションとして剥離

された枚数を数えるカウンタ機能を取り付けることが可能です。円滑な生産管理に役立っています」

「ラベル剥離機をどのように訴求していますか」
「ブランドオーナーが多く来場する展示会への出展を積極的に行っています。コロナ禍やロシア情勢などによる影響で、ラベル印刷機や加工機メーカーさまと同様に、部品の供給難に強いられている実情は否めません。そのような中で、当社のラベル剥離機の存在を多くの方に認知してもらい、先々の導入につなげていきたいです」

「またホームページでは、ラベル剥離機の剥がす機能を活用したアニメーション動画を流すほか、SNSで情報発信を続けています。今後、人の手で剥がすのと、ラベル剥離機でラベルを剥がすデモンストレーションで、どちらの作業効率がいいのかを示す、比較動画も配信予定です。全国各地へ剥離機のよさを知ってもらい、ラベルにまつわる資材の梱包や発送業務のお力添えをしたいです」



剥離紙の巻き取りユニット付きラベル剥離機「P-220W」